

県立大生が学習後押し

住 田

釜石市の五葉地区公民館で支援活動

住田町の五葉地区公民館で15日、岩手県立大生らが参加する「いわてフィールドワーク・ラーニング2018夏期プログラム」の一環で、中学生に勉強を教える合宿型の勉強支援が始まった。中学

生たちが復興支援やホームステイなどをして過ごす夏期プログラムは12日からスタート。合宿型の学習支援は、部活動を引退して高校受験に向けた準備に入

った中学3年生を迎え、主体的に学ぶ力を高めるためと企画した。

語り、環境の良さもスムーズな学習支援につながっているところもある。同日は五葉地区内で宿泊し、夕食時には地域住民との懇親会も。学習支援は16日も行われ、英語の自学自習を予定している。

から、交流を深めた。フィールドワーク・ラーニングは特定非営利活動法人いわてGINNINET(盛岡市、八重瀬綾子代表)が運営し、県立大からの委託事業として実施。若者が主体的に地域貢献活動を行うことで人材育成や地域活性化につなげ、災害や地域の歴史・文化を次世代に受け継ぐことも

に、震災復興への寄与も見据えている。住田を拠点とし、学生たちが復興支援やホームステイなどをして過ごす夏期プログラムは12日からスタート。合宿型の学習支援は、部活動を引退して高校受験に向けた準備に入

った中学3年生を迎え、主体的に学ぶ力を高めるためと企画した。参加したのは、釜石市内の中学校に通う生徒3人。県立大の大学生、大学院生計8人がサポート役にあたった。

午前は、愛知県美浜町に本部がある日本福祉大学金学センターの村川弘城助教(33)が、数学を学ぶ楽しさなど



午前は、愛知県美浜町に本部がある日本福祉大学金学センターの村川弘城助教(33)が、数学を学ぶ楽しさなど

五葉地区公民館の敷地にはかつて、小学校などがあった。村川助教は「緑に囲まれる中で川のせせらぎや鳥のさえずりが聞こえ、集中しやすいのでは」と